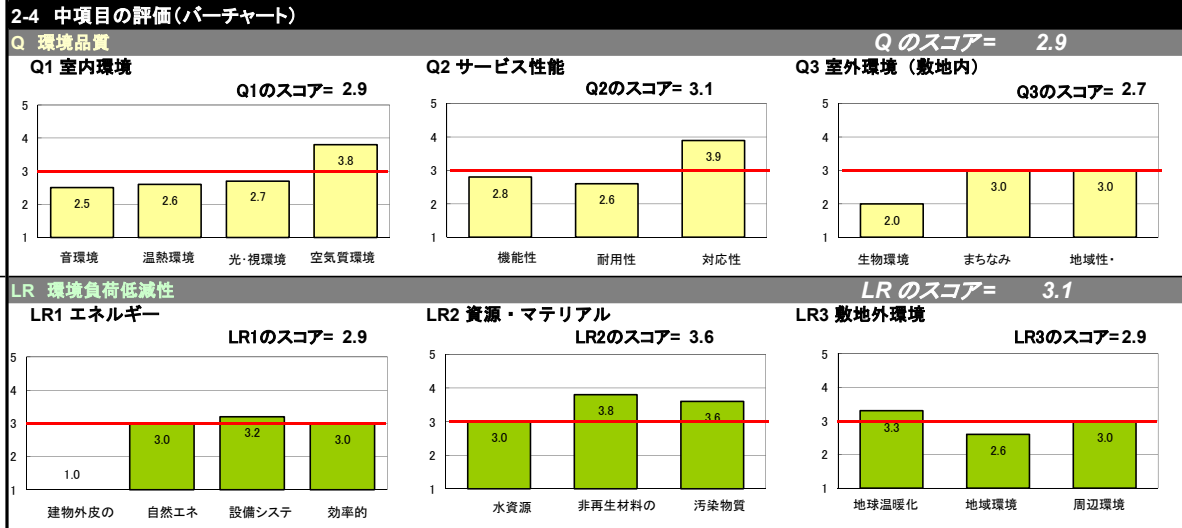
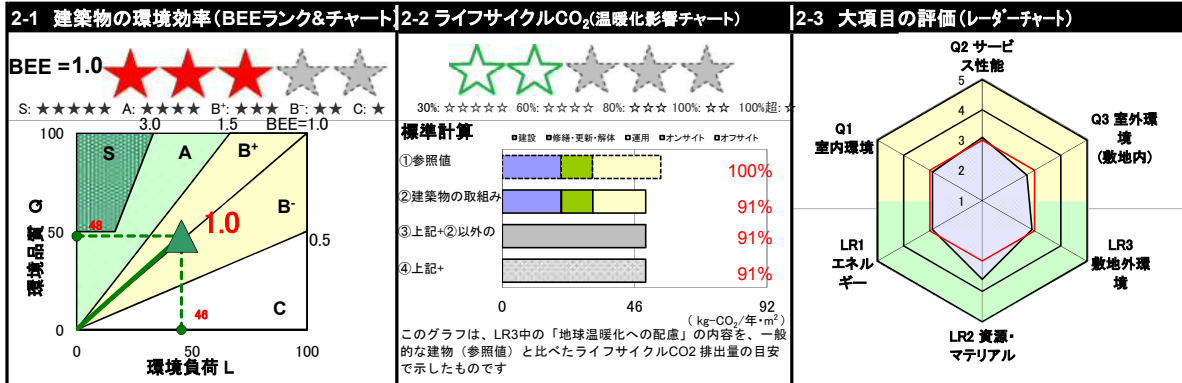


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	CEPO半田 バイオマス発電所 建設	階数	地上7F
建設地	愛知県半田市日東町4番1の一部、	構造	RC造
用途地域	工業専用地域(法第22条区域)	平均居住人員	45 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,640 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2017年12月1日
敷地面積	17,832 m ²	作成者	松岡秀直
建築面積	2,656 m ²	確認日	2017年12月1日
延床面積	6,268 m ²	確認者	松岡秀直



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>10.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用建物全体・共用部		脱乳・宿泊		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル				2.5	2.5	0.32				2.9
1.2 遮音				3.0	3.0	0.15				2.9
1.2.1 開口部遮音性能				1.8	1.8	0.40				2.5
1.2.2 1 界壁遮音性能				1.0	1.0	0.40				-
1.2.2 2 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	3.0	0.40				-
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-				-
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-				-
1.3 吸音				3.0	3.0	0.20				-
2 温熱環境										
2.1 室温制御				2.6	2.6	0.35				2.6
2.1.1 室温				2.2	2.2	0.50				-
2.1.2 1 外皮性能				3.0	3.0	0.38				-
2.1.2 2 ソーン別制御性				3.0	3.0	0.25				-
2.1.2 3				1.0	1.0	0.38				-
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20				-
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30				-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用				2.7	2.7	0.25				2.7
3.1.1 昼光率				1.8	1.8	0.30				-
3.1.2 1 方位別開口				1.0	1.0	0.60				-
3.1.2 2 方位別開口				-	-	-				-
3.1.2 3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40				-
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.30				-
3.2.1 昼光制御				3.0	3.0	1.00				-
3.3 照度			事務所:照度750lx	4.0	4.0	0.15				-
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25				-
4 空気環境										
4.1 発生源対策				3.8	3.8	0.25				3.8
4.1.1 化学汚染物質			F☆☆☆☆の材料を採用	5.0	5.0	1.00				-
4.2 換気				3.0	3.0	0.30				-
4.2.1 換気量				3.0	3.0	0.33				-
4.2.2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33				-
4.2.3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33				-
4.3 運用管理				2.0	2.0	0.20				-
4.3.1 CO ₂ の監視				1.0	1.0	0.50				-
4.3.2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50				-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ				2.8	2.8	0.40				2.8
1.1.1 広さ・収納性				2.0	2.0	0.40				-
1.1.2 1 高さ・収納性				3.0	3.0	0.33				-
1.1.2 2 高度情報通信設備対応				2.0	2.0	0.33				-
1.1.2 3 バリアフリー計画	独自			1.0	1.0	0.33				-
1.2 心理性・快適性				3.3	3.3	0.30				-
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)			4.5階執務室:天井高3.0m	5.0	5.0	0.33				-
1.2.2 リフレッシュスペース			リフレッシュスペース:執務スペースの1%以上	4.0	4.0	0.33				-
1.2.3 内装計画				1.0	1.0	0.33				-
1.3 維持管理				3.5	3.5	0.30				-
1.3.1 維持管理に配慮した設計			内装仕上げ・外装仕上げに配慮	4.0	4.0	0.50				-
1.3.2 維持管理用機能の確保				3.0	3.0	0.50				-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振				2.6	2.6	0.31				2.6
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.48				-
2.1.2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80				-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20				-
2.2.1 躯体材料の耐用年数				2.7	2.7	0.33				-
2.2.2 1 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	3.0	0.23				-
2.2.2 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	2.0	0.23				-
2.2.2 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	3.0	0.09				-
2.2.2 4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	3.0	0.08				-
2.2.2 5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	3.0	0.15				-
2.2.2 6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	3.0	0.23				-
2.4 信頼性				1.8	1.8	0.19				-
2.4.1 空調・換気設備				1.0	1.0	0.20				-
2.4.2 給排水・衛生設備				2.0	2.0	0.20				-
2.4.3 電気設備				3.0	3.0	0.20				-
2.4.4 機械・配管支持方法				1.0	1.0	0.20				-
2.4.5 通信・情報設備				2.0	2.0	0.20				-

3 対応性・更新性				3.9	0.29				3.9
3.1 空間のゆとり				4.6	0.31				
1 階高のゆとり			1階:階高4.8m	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ			設備・空間プランニングの自由度が高い	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				4.2	0.38				
1 空調配管の更新性		②	構造部材だけでなく仕上げを痛めず更新・修繕が出来る	4.0	0.17				
2 給排水管の更新性			構造部材を痛めず更新・修繕が出来る	4.0	0.17				
3 電気配線の更新性			構造部材だけでなく仕上げを痛めず更新・修繕が出来る	5.0	0.11				
4 通信配線の更新性			構造部材だけでなく仕上げを痛めず更新・修繕が出来る	5.0	0.11				
5 設備機器の更新性			主要機器の更新に対応したルートの確保	5.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38				2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30				3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー					0.40				2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				1.0	0.06				1.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.26				3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm 非住宅 0.78	3.2	0.40				3.2
4 効率的運用				3.0	0.27				3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00				
4.1 モニタリング				3.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.6
1 水資源保護				3.0	0.15				3.0
1.1 節水				3.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63				3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル系床材(グリーン調達品目)、タイル(エマーク)、再生路盤材(あ)	5.0	0.21				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能	5.0	0.25				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22				3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆の材料を採用	5.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				-	-				
3 冷媒				3.0	1.00				
LR3 敷地外環境					0.30				2.9
1 地球温暖化への配慮		①	設備システムの高効率化により省エネを図り、CO2の削減	3.3	0.33				3.3
2 地域環境への配慮				2.6	0.33				2.6
2.1 大気汚染防止			燃焼機器の不採用	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	適切な量の駐車場及び場内通路を確保	4.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制			廃棄物処理負荷の抑制	4.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	1.00				
2 振動		独自		-	-				
3 悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				3.0	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

CEPO半田バイオマス発電所 建設工事【燃料供給棟】

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	2.6	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:10.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 道路境界付近及び敷地外周に、緑地を設け緑化に努めた。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 F☆☆☆☆の材料を採用。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 心理性・快適性に配慮したゆとりのある空間を確保。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 緑地及び通路等の空地を設けることで敷地内の通風を確保。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの高効率化。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体材料以外にリサイクル材を使用。(床:ビニル系床材(グリーン調達品目)、床:タイル(エコマーク)、基礎砕石:再生路盤材(あいくる認定材))
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 適切な量の駐車場及び場内通路を確保することで交通負荷を抑制。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。